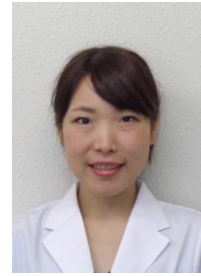


和歌山病院での実習



佐々木 梨絵

和歌山病院での実習は今回で2回目でした。1年生の時に早期臨床体験実習でお世話になりましたが、病棟や寮が新しくなり、また、1年生時は大まかにいうと「地域医療を見る」という目的でしたが、今回は呼吸器内科の実習で、特に「呼吸器感染症の病棟を見る」というのが目的だったというのもあり4年前とは全然違う印象を受けました。

今回、1泊2日で実習をさせていただいたのですが、短い期間にも関わらず、学ぶことはとても多く大変濃密な学習ができました。

副院長の駿田先生には、結核という感染症とはということから、結核の診断や治療、和歌山病院での結核病棟の様子、感染対策など様々なことを教えていただきました。医療従事者に必須のN95のつけ方も初めて教えていただき、医大に帰って実習する際にも必要な時にN95をしっかりと装着できるようになりました。

南方院長には、胸部X線の見方を教えていただきました。その際、まず「X線画像ではなにがどうみえているのか」という基本的なところをX線画像と影絵と比較してじっくりと考えることで理解し、そこから丸覚えではなく、論理的に画像を見るということ学びました。今までなんとなくここに影がある、異常があるといった見方しかできず、X線画像を見ることに苦手意識があったのですが、それは身体の正常解剖と比較して異常がどれか考えていなかったからであり、いくつかの基本を押さえれば、胸部X線で見べきポイントも分かってきて、まさに目から鱗でした。また、肺のセグメントも今までノートの上で覚えるのは忘れを繰り返してしまっていたのですが、気管支体操というとてもユーモラスな方法で覚えることができ、その解剖からX線上のこの影はどこにあるのかということまで考えることができるようになったのも大きな成長だと思います。夜には、おいしいご飯に連れて行ってくださり、面白いお話をたくさんして頂けてとても楽しい時間を過ごすことができました。

さらに、臨床工学技師さんからなかなか学生には触れる機会のない人工呼吸器を実際につけさせて頂いたり、saturationの変化を体感したり、胸部X線、CTの感染症における異常など各論的な知識もセミナーで教えていただき大変勉強になりました。

和歌山病院の方々には皆さんとても親切にしてくださり、病院の雰囲気もとても良く、機会があればぜひまた実習させていただきたいと思いました。お忙しい中、私たち実習生にお時間を割いてくださった和歌山病院の皆様には心より感謝申し上げます。